

平成 20 年度 第 18 回秋季シンポジウム

「都市に住まう術—比較文化の視点から—」

人々の住まいは、これまで都市から郊外へと展開されてきました。しかし近年、再び郊外から都市へと、その住まい方の志向が変化してきました。では、これから都市はどのように活性化していくのでしょうか。また、郊外はどのような姿に変容するのでしょうか。本年のシンポジウムでは、郊外住宅地開発の嚆矢となった英國の 100 年と、明治末に東洋の「マンチェスター」「煙の都」といわれた大阪はじめ、京阪神の 100 年を比較しながら、これらの都市に住まう術について探りたいと思います。

講演者

角山 榮 氏：和歌山大学名誉教授

谷 直樹 氏：大阪市立大学教授

記

日時

2008 年 11 月 29 日（土） 13:30～17:15

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 西ホール

参加費

無料

次第

13:00 受付開始

13:00 開会あいさつ 森谷尅久（生活美学研究所）

13:40 講演 1 「都市に住まう術の東西文化交流史—茶の文化をつうじて見る英國と日本—」角山 榮（和歌山大学名誉教授）

14:30 講演 2 「まちに住まう術—上方三都のライフスタイル—」谷 直樹（大阪市立大学教授）

15:20 休憩

15:50 パネルディスカッション

参加者

角山 榮（前掲）

谷 直樹（前掲）

橋爪紳也（生活美学研究所嘱託研究員・大阪府立大学特別教授）

進行

藤本憲一（生活美学研究所）

総合司会

横川公子（生活美学研究所）

17:15 閉会